



別刷り

学習企画

第8回

「軍事国家への道を許さない」

航空自衛隊の実力

さて、日本は大きな軍事力を持っているので、周辺国にとっては脅威に映るレベルだと記しました。今回からは、そこをもっと詳しくみていきたいと思えます。まず、航空自衛隊です。下表が主な戦力になります。ここで注目すべきは、多くの戦闘機が最新鋭のものになっているということです。もちろん高価です。例えば、百里基地に配備されているF-2戦闘機は、アメリカ軍のF-16戦闘機をモデルにして改修したものです。F-16戦闘機よりも飛行航続距離が伸び、運動性能も飛躍しています。また、複数の目標を捉えることができるレーダーシステムも開発され、高性能の戦闘機となっています。

同時に戦闘機を含めた兵器の稼働率は約90%を超えており、世界最高水準にあるということです。ちなみにアメリカ軍は80%の稼働率・中国軍は65%の稼働率と言われています。下表の戦闘機の90%が稼働

働できている状態は、それを支える軍需産業の修理・メンテナンスの技術水準の高さを示しています。

また、自衛隊のパイロットは、もともと高教育水準の者が多くITの扱いへの順応度は高いものがあります。そして年間約150時間訓練をしています。中国は年間25時間程度と言われているので、戦闘技術のレベルも格段な状況であることがわかります。



▲築城基地のF-2 (出典: Wikipedia)

隊員			約47000人	
自衛隊機	総数		470機	
	(内訳) 戦闘機	戦闘機総数		300機
		(内訳) F-35		29機
		F-15		200機
		F-2		91機
	早期警戒機	E-767 (JWACS管制機)		4機
		E2C早期警戒機		13機
	空中給油機	KC-46		4機
	電子戦機			7機
無人偵察機	RQ-4B(グローバルホーク)		1機	
ミサイル	総数		10922発以上	
	(内訳) 空対空ミサイル		10250発以上	
	空対艦ミサイル		288発以上	
	地対空ミサイル		384発以上	

▲自衛隊装備年鑑 装備一覧より主なもののみ抽出

陸上自衛隊の実力

陸上自衛隊は決して多くはないのですが、その「質」はかなりのものがあります。戦車では90式戦車は、砲弾の自動装填と走行中での射撃の性能の命中

精度が高いものがあり世界トップクラスの性能があります。自衛隊員の教育水準も高く、コンピューター制御の兵器の扱いができます。

隊員		15万8千人
ミサイル	対空ミサイル	474セット以上
	対戦車ミサイル	1853基以上
	対艦ミサイル	100セット以上
戦車・装甲車	戦車	588両
	装甲車	3293両
砲弾	自走砲	430両
	榴弾砲・迫撃砲	751門
ヘリコプター	戦闘ヘリコプター	59機
	オスプレイ	5機

▲自衛隊装備年鑑より



▲90式戦車 (出典: Wikipedia)

オスプレイに関して



▲アメリカ海兵隊所属のオスプレイ (出典: Wikipedia)

上記の表にあるように陸上自衛隊にはオスプレイが配備されています。数年前からかなり話題になっている機種ですので、簡単に解説をしておきます。

オスプレイは、2007年からアメリカ軍で導入された垂直離着陸機です。離陸および着陸時にはヘリコプターのように回転翼が地面と水平になります。飛行時はプロペラ機のように回転翼が地面に垂直になって飛行します。開発当初および運用開始から事故が頻発し、F-104 (すでに退役した初期ジョット戦闘機) と同様「未亡人製造機」と言われました。

このオスプレイの問題は、機体設計もそうですが、運用および操縦の複雑性に多くの問題があります。オスプレイには3区分の操縦が必要になります。垂直離着陸モード・固定翼モード・転換モードであり、特に転換モードは回転翼が地面と垂直なものを水平にするのできわめて不安定になります。また、整備士も倍の練度が必要になります。それとあわせて一口にオスプレイと言っても派生型が多く、砂漠地帯向け・寒冷地向け・海上向けなどがあり、ミスが生じやすく実戦での事故は覚悟しなければならない機体なのです。(国吉)